

作成日：2026/05/28

氏 名 井沼 道子 (INUMA Michiko)

所 属 薬学部 薬学科

職 種 助教

生 年 1979 年

[履 歴]

[学 歴]

2001 年 3 月 弘前大学理学部生物学科 卒業

2005 年 3 月 弘前大学大学院理学研究科生物学専攻 修了

2009 年 3 月 岩手大学大学院連合農学研究科生物資源科学専攻 修了

[学 位]

農学博士

[職 歴]

2009 年 4 月 アドバンテック株式会社 特定派遣研究員

2016 年 4 月 青森大学薬学部 助教

[受 賞]

特記事項なし

[所属学会]

日本薬学会、染色体学会

[教育活動]

[担当科目]

生物薬剤学、製剤学、英語Ⅳ、薬剤学実習、生物学実習、物理学実習、薬学特論、
薬学セミナー

[ゼミ指導]

薬物代謝動態学研究室で 4 年生 1 人、6 年生 2 人を指導（寺村教授と共同）

[教育指導に関する特記事項]

- 1: 3 年生対象の生物薬剤学、製剤学の講義。
- 2: 4 年生対象の薬学英语の講義（他の教員と分担）。

- 3: 4年生・6年生対象の薬学特論の一部講義を担当。
- 4: 学生実習において各種実験の指導等を行っている（他の教員と共同）。
- 5: 研究室の学生に対する卒業研究に関わる実験の指導・補助を行っている。

[研究活動]

[研究テーマ]

後発医薬品に関する薬剤学的研究

OTC 薬（市販薬）に関する薬剤学的研究

[著書、論文、総説]

- 1: Inuma M, Obara Y, Kuro-o M. The delayed quinacrine mustard fluorescence from the C-blocks of *Apodemus argenteus* is due to the introduction of nicks into the DNA. Zoological Science 2007 Jun; 24 (6): 588-595.
- 2: Inuma M, Obara Y, Kuro-o M. The role of nick formation in delayed quinacrine mustard fluorescence in the C-heterochromatin of *Apodemus argenteus*. Zoological Science 2009 May; 26 (5): 344-348.
- 3: 井沼道子, 杉原啓介, 三上智治, 中西俊博, 廣津千絵子, 柳谷浩紀, 三浦裕也 アンジオテンシンⅡ受容体遮断薬 (ARB) 先発品・後発品の 薬局来訪者における認知度及び使用実態に関する研究 The survey on usage and recognition of original and generic drugs of angiotensin II receptor blocker (ARB) in pharmacy visitors. 青森大学付属総合研究所紀要 2022 September; 24 (1): 1-10.

[学会発表]

- 1: 井沼道子、小原良孝、黒尾正樹 ヒメネズミの C-ヘテロクロマチンに関する研究 ― QM 蛍光遅延に伴う染色体 DNA の変化 染色体学会第 56 回年会（2005 年 10 月）
- 2: 井沼道子、小原良孝 ヒメネズミ C-ヘテロクロマチンの QM 蛍光遅延における染色体タンパク質の関与 染色体学会第 57 回年会（2006 年 11 月）
- 3: 井沼道子、小原良孝 ヒメネズミ C-ヘテロクロマチンにおける QM 蛍光遅延の非遅延型への転換と染色体 DNA の nick との関連 第 58 回染色体学会・第 17 回染色体コロキウム合同年会（2007 年 11 月）
- 4: 井沼道子、相馬理佐、邊見華菜恵、佐々木智江、澤田陽生、中村祐介、村井収平、村上浩一、本木雅大、竹林優佳、小笠原大樹、大越絵実加、佐藤芳久、三浦裕也、上田條二（青森大薬） 薬学生によるセルフメディケーション発信の有用性―健康意識向上に対する地域医療支援― 日本薬学会第 137 年会（2017 年 3 月、仙台）

- 5: 井沼道子、小笠原大樹、横濱康平、古舘澄人、工藤貴史、葛西嘉駿、三浦裕也（青森大薬） 中高生に興味を持たせる薬学体験プログラムの構築 その1 打錠体験 第56回日本薬学会東北支部大会（2017年10月、青森）
- 6: 井沼道子、杉原啓介、石岡憂聖、乳井涼、葛西嘉駿、古舘澄人、工藤貴史、三浦裕也／三上智治、中西俊博、廣津千絵子、柳谷浩紀（青森大薬／中央薬品） アンジオテンシンⅡ受容体遮断薬（ARB）先発品・後発品の薬局来訪者における認知度及び使用実態に関する研究 日本薬学会第139年会（2019年3月、千葉）
- 7: 天内百合香、井沼道子、寺村俊夫（青森大薬） 各種飲料を用いた市販薬錠剤の崩壊試験 ―錠剤をお茶やジュースと一緒に飲んでも大丈夫？― 日本薬学会第144年会（2024年3月、横浜）
- 8: 佐々木悠哉、井沼道子、寺村俊夫（青森大薬） 各種飲料を用いた医療用医薬品・一般用医薬品の崩壊試験 ―錠剤をお茶やジュースと一緒に飲んでも大丈夫？ Part 2― 日本薬学会第145年会（2025年3月、福岡）
- 9: 阿保雄大、井沼道子、寺村俊夫（青森大薬） 各種 OTC 解熱鎮痛剤の崩壊速度 ―“クイック”と冠された製剤は通常製剤と比較して素早く崩壊するのか― Comparison of disintegration time of OTC antipyretic analgesics between “quick” and “normal” tablets. 日本薬学会第146年会（2026年3月、大阪）

[学内各種委員]

バイオセーフティ委員会、卒業研究委員会、CBT 運営委員会、OSCE 運営委員会、実務実習・事前学習実施委員会、薬学教育センター、薬学部同窓会・生涯教育セミナー